

関西
ステンレス

内需減で上値重い展開

(大阪) 関西地区のステンレススクラップ相場は上値の重い基調になっている。輸出大手の買値は先高観測が優勢ながら現時点でも目立った変動がない。ニッケルの軟調地合いや内需の低迷も重石で、市況は模様眺めのまま中旬に差し掛かった。市中では天井感も意識される中だが、他地区での動意や現物不足で強気寄りの見方も根強い様子。手掛かりを探る商状が続く。

韓国向け輸出大手の実勢買値は1キあたり180~185円見当で変わらず。韓国ポスコの11月価格が上昇したことで、買値は月初から先高観が広がっていたが足元も上値の更新は聞かれない。ある商社筋は「韓国向けの需要が盛り上がりや欠き、内需の低迷を踏まえると買値を積極的に上乗せする必要性は薄い。上値の更新については慎重な構えを崩していない」と話す。

また、他の輸出筋は「可能性は低いものの、内需の不振で輸出への流出がさらに加速し、受け入れキャパや必要数量を上回る水準になれば調整下げもあり得るのでは」と慎重な見方を示す。

ただその一方で、個別対応による安値修正の動きが複数で散見。ある納入筋は「180円の買値が185円に切り上がった」という。足元の輸出大手の動向は捉えにくいのが実情で、需給双方が注視する展開が続く。一方、西日本地区の国内ミルの実勢買値は180~185円見当で変わらず。ただ、中部地区のミル2社が先週後半から個別対応で5円値上げを行ったと見られ、域内にも波及するのかどうか注目が集まる。

LMEニッケル・ステンレススクラップ相場推移

	LMEニッケル相場 (月平均) \$/MT	LME Ni在庫ASIA・SABOT (期末/t) \$/MT	フェロクロム相場 高炭素品・\$/LB	為替相場 (TTS)
2023年平均・合計	21,505	64,056	1,443	164.25
2024年平均・合計	16,818	160,536	1,338	156.50
2025年3月	16,055	198,720	1,300	143.00
4月	15,210	201,318	1,220	148.00
5月	15,325	199,380	1,230	148.00
6月	14,989	204,006	1,230	148.00
7月	15,023	208,692	1,250	153.00
8月	14,909	209,544	1,240	153.00
9月	15,102	231,312	1,260	153.00
10月	15,080	252,102	1,260	163.00
11月	14,910	253,404	1,260	163.00

※11月は現地10日の価格を記載

中国の1~9月ステン鋼生産3046万ト 前年比4.8%増

中国鋼鉄工業協会ステンレス分会がこのほど発表した中国の1~9月ステンレス粗鋼生産量は、前年同期比4.8%増の3046万1800トだった。中国政府の景気刺激策による需要拡大を見込んだ現地ステンレス鋼ミルが増産体制を保持。今後も増産ペースを維持するとみられ、今年度は年率換算で初の4000万トを超えとなる公算が大きい。

そのうち、全粗鋼生産量の5割超を占めるニッケル系(300系)は同6.3%増の1562万900ト、マンガン系(200系)は同4.5%増の890万9900ト、クロム系は同0.6%増の558万2700ト、二相鋼ステンレスは同14.7%増の34万8300トと軒並み増加した。

ただ、景気の低迷に伴う需要の減少で供給過剰の状

中国の2024年上半期(1~6月)ステンレス粗鋼生産量 単位: 万ト

		2024年 1~9月	2025年 1~9月	前年比
ステンレス 粗鋼生産量	Cr-Ni系(300系)	1469.93	1562.09	6.3%
	Cr系(400系)	554.80	558.27	0.6%
	Cr-Mn系(200系)	852.40	890.99	4.5%
	二相鋼ステンレス	30.36	34.83	14.7%
	合計	2907.49	3046.18	4.8%
ステンレス鋼材輸入量		144.69	113.80	-21.3%
ステンレス鋼材輸出量		372.18	378.27	1.6%
ステンレス鋼材見掛消費量		2400.64	2491.23	3.8%

出所: 中国特殊鋼企業協会ステンレス分会

態が継続。ステンレス鋼材の輸入量は同21.4%減の113万8000トと大きく減少する一方で、輸出量は同1.6%増の378万2700トと増勢を維持。世界の鋼材需給のバランスを崩す要因となっている。

富士マテリアル、地元中学校にバスケットボールを寄贈

(大阪) レアメタルやレアアースのリサイクル事業を展開している富士マテリアル(本社=大阪府大阪市、西尾一社長)は、物流拠点の大正工場・倉庫を構える大阪市大正区の市立中学校4校にバスケットボールを寄贈した。同社は富士興産(本社=大阪府大阪市、赤嶺和俊社長)から原料リサイクル事業を分離独立させ、事業継承した企業となる。

同取り組みは、大阪市を本拠地とするバスケットボールBリーグの「大阪エヴェッサ」が取り組むチャリティーパートナー活動への賛同をきっかけに始動した社会貢献活動の一環。富士興産の時から、大阪市内

の小・中学校にバスケットボールや連絡帳を寄贈しており、同社は富士興産の事業継承後も、この活動を継続して取り組んでいる。

チャリティーパートナー活動について西尾社長は「少しでも地元へ恩返しをすることで、若い方のスクラップ業界に対する良くないイメージを払拭し、将来的な人材確保にもつながってほしい」とコメントしている。



寄贈したバスケットボール